

札幌市西部スラッジセンター3～5系焼却施設改築事業環境影響評価方法書（第1回：令和7年9月9日、第2回：令和7年11月11日）

No.	委員	区分	質問の要旨	事業者回答
1	山田 委員	質問	【排水の扱いについて】 ・水質は環境影響評価の対象外とのことだが、「施設排水」とは焼却施設内の排水のことか。 ・敷地内の雨水や工事中の濁水はどのように処理され、周辺河川への影響はないか。	・「施設排水」は煙突洗浄等の排水を指しており、配管を通して水再生プラザに戻す（従来通り）。 ・雨水は、道路排水の側溝から濁川に排水する（従来通りで環境変化がないように進める）。 ・工事中の濁水は、必要に応じて水再生プラザに流すなど適切に処理する。
2	渡部 会長	質問	【煙突の高さの検討について】 ・煙突高さの案3（40m）は、建物の構造上、機器を積み上げた結果の高さなのか。焼却炉の位置から本来必要な高さという観点での設定なのか。	・案3（40m）は、建物の構造上、焼却炉の上に脱水機を設置するため、それぞれの高さを積み上げていくと自然に40mになるという設定である。 ・既存の1・2系の煙突の高さ6mに、メーカーから得た脱水機の高さを加えて算出した。
3	森 委員	質問	【温室効果ガスについて】 ・温室効果ガスの評価に、工事車両の排出分は含まれるのか。	・工事車両の運行に伴う排出も評価の対象としている。
4	北岡 委員	質問	【温室効果ガスの評価について】 温室効果ガスの評価は「二酸化炭素」のみか。それとも他のガスもCO ₂ 換算して評価するのか。	窒素系のガスなども含め、二酸化炭素に換算して評価する予定である。
5	芥川 委員	質問	【振動への関連性・悪臭の予測方法について】 ①資料（4-5ページ）で騒音・振動の項に「煙突高さ」の記載があるが、関連性がないのではないか。 ②悪臭について、現状の実測値からどのように将来予測を行うのか。煙突の高さ（3案）はどのように考慮されるのか。	①ご指摘の通り、煙突高さは振動に影響しないが、配慮書段階で複数案を評価した経緯から記載を残した。 ②今後、炉の詳細が判明するため、大気拡散式（ブルーム式、パフ式）を用いてより詳細な計算で予測する。煙突高さは、もし1案に絞られていればその案で、3案のままならそれぞれで予測を行う。
6	渡部 会長	質問	【悪臭の現状調査と評価方法について】 ①現状調査が夏季の1日となっているが、どのように調査日を選定するのか。ある気象条件の日を選ぶのか。その1日のデータからどうやって年間の影響を評価するのか。 ②現状調査は、既存施設からの影響をバックグラウンドとして把握するという理解でよいか。 ③その場合、更新で無くなる施設も稼働している前提での評価となり、安全側（厳しい側）の評価になっていると取れるが、それでよいか。	①調査日は特定の気象条件を狙うものではなく、平均的な状況の日に行う。予測計算では、その実測値と1年間の気象データ（風向・風速）を用いるため、年間の影響評価が可能である。 ②ご指摘の通り、現状調査はバックグラウンドを把握するためのものである。 ③現状の全5炉が稼働している状態に新設3炉分を上乗せして計算し、問題がなければ最も安全側の評価と言える。それでは過大評価すぎる場合は実際の稼働炉数に調整して予測する等、今後検討して対応可能。